

◆夢を育み 明日が待たれる 魅力ある学校づくり◆

# 北教だより

茨城県県北教育事務所  
令和3年7月12日(月)  
第3号

電話 0294-34-0774  
FAX 0294-32-0006  
E-mail hokukyo@pref.ibaraki.lg.jp

## チーム力で、不祥事根絶を！

学校に子どもたちの笑顔が戻ってきてから、間もなく4ヶ月が過ぎようとしております。学校訪問では、全ての学校において、子どもたちが生き生きと活動する姿に触れることができました。コロナ禍における各市教育委員会や現場の先生方の日々のご尽力に対し、深く感謝申し上げます。

さて、いよいよ夏休みが始まります。児童・生徒においては、開放感やコロナ禍での多様な不安やストレスから、生活習慣の乱れや交通事故、問題行動等の発生が懸念される時期です。合わせて、教職員においても、交通事故や不祥事が発生しやすい時期でもあります。特に、体罰事故やわいせつ事案については、周囲の目が少なくなる夏季休暇中の発生が多い傾向にあります。

つきましては、令和3年6月25日付け義教第822号「夏季における学校管理及び教職員の事故防止について(通知)」並びに「市町村向け「管理職のためのサービス管理ハンドブック」について(令和2年12月9日付け義教第1998号)」等をご活用の上、学校事故の未然防止に向け、教職員一人一人に応じた適切な指導・支援の徹底をよろしくお願いいたします。

## チーム力 (教職員同士の支え合い)

飲酒運転事故防止

交通事故防止

セクハラ・わいせつ事故防止

パワハラ防止

個人情報盗難事故防止

体罰事故・暴言防止

適正な会計処理

働き方改革の推進

## 不祥事防止のためのチェックリスト (「管理職のためのサービス管理ハンドブック」より)

項 目	はい	いいえ
教育公務員として、その職務を遂行するに当たり職務上の義務があることを理解しているか。		
職務上の義務として、法令等及び上司の職務上の命令に従う義務があることを理解した上での行動がとれているか。		
職務上の義務として、勤務時間中は、全力を挙げて職務に専念しているか。		
教育公務員として、身分上の義務(信用失墜行為の禁止・守秘義務・政治的行為の制限・争議行為等の禁止・営利企業への従事制限等)があることを理解しているか。		
教育公務員として、勤務時間の内外を問わず、より厳しい倫理観・規範意識・遵法意識が求められていることを意識した行動がとれているか。		
勤務時間外であれば、「この程度なら大丈夫だろう」といった考えで安易な行動をすることはないか。		
過度の飲酒や遊興にふけったりして職務に影響を及ぼすなど、教育公務員としてふさわしくない行為を行わないよう日頃から心掛けているか。		
不祥事を起こした場合、教育全体、学校、児童生徒、保護者、家族、自らのその後の生活等に対して取り返しのつかない重大な影響を及ぼすことを認識しているか。		
教育公務員として、児童生徒の人格形成を支援する重大な責務を担っているという自覚を持っているか。		
他の教職員の言動に気になることがあれば黙認せず、直接注意したり、管理職へ報告したりするなどの行動がとれているか。		
衝動的な感情や欲求をコントロールしたり、普段の生活の中でストレスをためない工夫をしているか。		
児童生徒との関係において、偏見や恋愛感情を持ったりして不適切な関係にならないよう日頃から心がけているか。		

## ねらいに即した指導と評価の工夫を（算数・数学科）

ねらいに即した指導と評価の工夫について、中学校第1学年数学「一次方程式」の例を紹介します。どの教科・学年にも共通する授業づくりのヒントが盛り込まれていますので、是非参考にしてみてください。

本時のねらいを達成したかどうかを評価する場面では、それを見取ることができるような問題を意図的に出題することが大切です。例えば、中学校第1学年数学「一次方程式」では、「知識・技能」の観点で評価をする際に、次のような問題を使うことが考えられます。

ねらい：移項して一次方程式を解くことができる。

評価規準：等式の性質と移項の意味を理解している。簡単な一元一次方程式を解くことができる。  
(知識・技能)

一次方程式  $4x + 7 = 15$  を解きなさい。

$$4x + 7 = 15 \cdots \textcircled{1}$$

$$4x = 15 - 7 \cdots \textcircled{2}$$

$$4x = 8$$

$$x = 2$$

<問題例>

①の式から②の式への変形では、7を左辺から右辺に移項しています。移項してよい理由は、等式の性質を基に説明することができます。7を移項してよい理由をノートに書きなさい。

「移項する」と「移項の意味を理解している」とには違いがあります。評価に際しては、事実的な知識を身に付けているかどうかだけでなく、より概念的な理解ができているかどうかについて評価できるような問題を工夫することが大切です。

<参考>『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」文部科学省・国立教育政策研究所 R2.3

## これだけは押さえない特別支援教育－①

≪ 自立活動と関連を図った教科等の指導の充実 ≫

特別支援教育において、自立活動の充実が、一層強く求められるようになりました。

「特別支援学校小学部、中学部学習指導要領 第7章 自立活動 第1 目標」には

「個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達<sup>1</sup>の基盤を培う。」とあります。

このことから、自立活動の時間はもとより、支援学級での各教科等の指導の際には、自立活動の時間と密接な関連を図った指導を心がけることが大切です。

それには、個々の児童生徒の障害の程度を踏まえ、自立活動6区分27項目を絞り込む作業を行います。絞り込んだ項目は個別の指導計画(必ず作成)に記載して、すべての教師が同じ指導目標を意識して当該児童生徒の指導を行うように体制を整えます。支援学級で行う教科の指導が、通常の学級の指導と全く同じでは、支援学級に在籍する意味が薄くなってしまいます。

繰り返しますが、自立活動を基盤に「障害による困難を改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養う。」など指導体制を充実させ、児童・生徒の自立と社会参加を目指すことが求められます。

